

森のひろば

フォレスト・ニュース

NO.1204
令和8年7月号

林野庁 近畿中国森林管理局



大阪市北区天満橋 1-8-75 桜ノ宮合同庁舎

TEL 050-3160-6763

<https://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>



スイレンの花（大阪市内）

トピックス：生産性の高い林業の確立に向けて（資源活用課）

ニュース：鳥取森林管理署、滋賀森林管理署、企画調整課

花草木：ジャカランダ

我が署のスタッフ：奈良森林管理事務所

森林事務所等紹介：大野森林事務所（福井森林管理署）

国有林最前線：和歌山森林管理署

生産性の高い林業の確立に向けて

【資源活用課】

近畿中国森林管理局では、平成 30 年度から各森林管理署等における生産事業請負契約において生産性向上モデル事業地を設定し、作業日報による工程管理により、作業システム全体の生産性向上を図る取り組みを行っています。

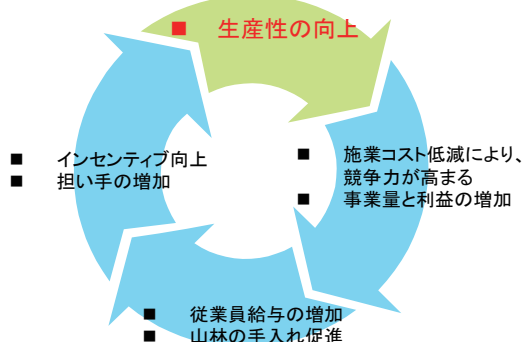
生産性向上の目的

生産性の向上は、我が国林業全体の課題であり、地域林業を支える林業事業体の経営基盤の強化や雇用の安定化、国産材の供給増大につながります。

生産性向上のメリット

- ・向上によるコスト削減は、事業者の利益となり、生産性経営の安定化につながります。
- ・利益を賃金等の雇用条件の改善につなげるなど、関係者に配分し、正のスパイラル（生産性向上→組織の利益→雇用改善→生産性向上）を生み出します。
- ・機械や人材への投資の安定・拡大、雇用条件の改善により、安全性の向上にもつながります。

＜利益拡大による正のスパイラル＞

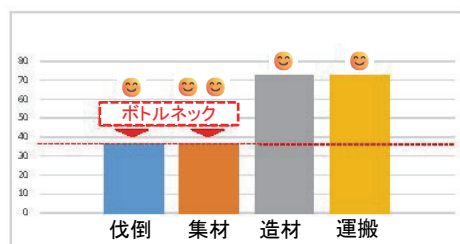


どう実践するか

ボトルネックを把握するために工程管理を行う

ボトルネックが把握されないと・・・

- ✓ 生産性の低い工程が全体の生産性向上を妨げることになります。
- ✓ 生産性が上がらない⇒生産力が低い⇒生産規模を拡大できないという状態から抜け出せない状況になります。

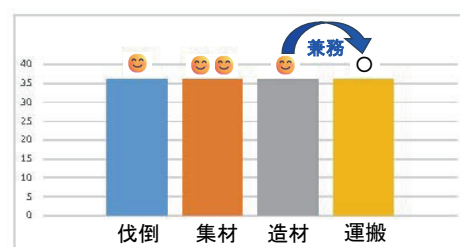


工程管理の数値をより効率的な作業システムに移行する時の判断材料にする

工程管理を実施することで

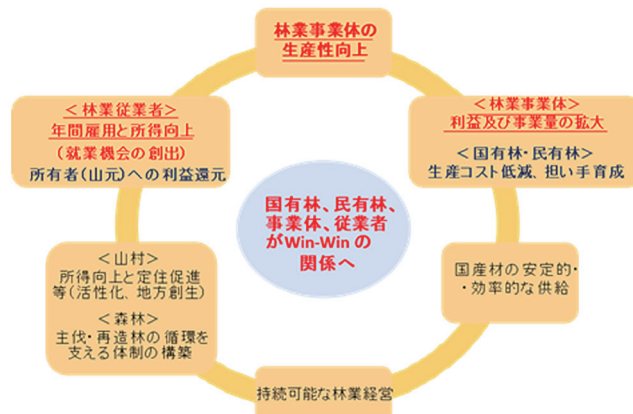
- ✓ 現在の作業システムの各工程が具体的な数値で確認できます。
- ✓ 現システムの潜在的な生産力や生産規模の上限を把握することができます。
- ✓ 規模拡大を検討する際に、工程管理の実行結果があれば、数値に裏打ちされた実践的な検討ができます。

(例：どのような機能の機械を購入するか、作業量の増減によりコストがどう変化するか、作業システムをどのように変更するか等)



「マルチ技能者」の育成起用によるボトルネックの解消イメージ

生産性の高い林業の確立



＜生産性向上による事業利益の増加イメージ＞

※全て1㎡当たり金額

【改善前】 11,600円		【改善後】 11,600円	
2,000	素材価格	2,000	
430	事業利益	900	UP
6,600	生産費	5,000	DOWN
2,570	立木価格	3,700	UP

【生産性 7㎡/人日】 【生産性 10㎡/人日】

・利益率 3.7% → 7.8%
・賃金 12千円 → 17千円

生産性が向上した事例

現地調査の結果から1 集造材・仕分けの工程を工夫

※ () 書きは林業用語、林業機械名等を標記しています。

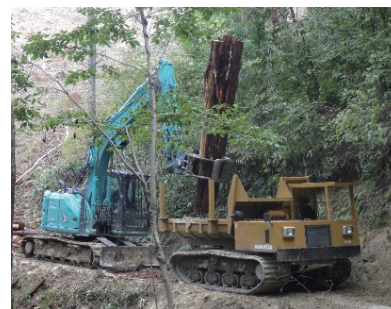
- ・ 木寄せ場所を作業道脇に変更したことで、丸太への加工（造材）と仕分けの同時進行が可能となった。
- ・ 良材と低質材を分けて運搬車（フォワーダ）に積み込むことで、土壌での仕分けが不要となり時間短縮となった。



伐採した木を作業道脇に集積し造材効率アップ



丸太加工（ハーベスタ）・丸太の積み込み（グラップル）・運搬車（フォワーダ）の連携で運材効率アップ



良材・低質材ごとに運搬車（フォワーダ）に積み込むことで土場での仕分けを省力化

現地調査の結果から2 ワイヤロープから繊維ロープへの転換

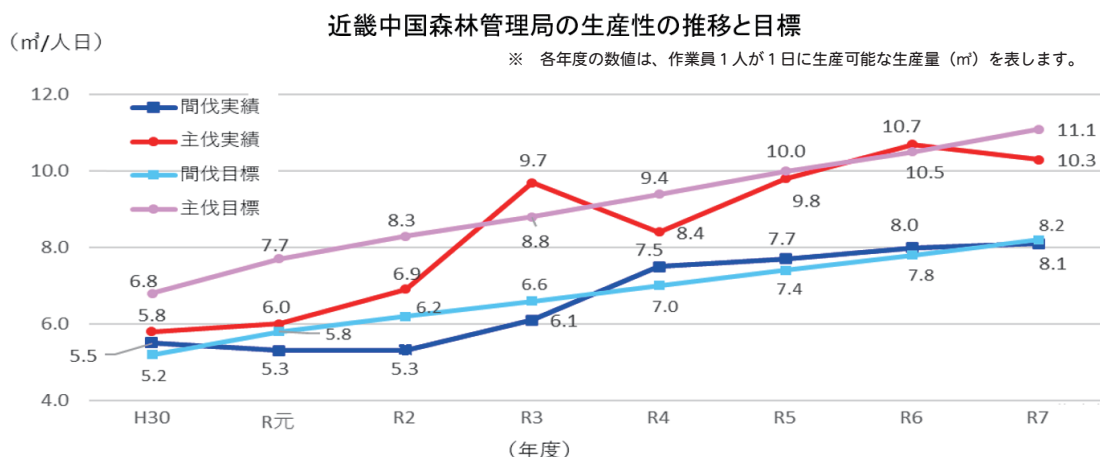
- ・ ワイヤロープと比較すると、軽量で作業性に優れるため、林内における伐倒木へのロープ掛けが容易に行え、捻じれによる摩耗（キンク）が起こらない。
- ・ 柔軟で耐摩耗性に優れ、強度・耐久性はワイヤロープと同程度で扱いやすい。



繊維ロープにしたことで作業員の労力軽減



強度・操作性に優れた繊維ロープの使用で、伐倒木へのロープ掛け（玉掛け）作業の効率アップ



おわりに

林業は野外作業が主体であり、地形や路網整備の状況、作業システムなどの現地条件が大きく異なります。また、林業事業体（以下、「事業体」という。）ごとに作業方法も異なることから、生産性を単純に比較することは困難です。しかしながら、上記グラフのとおり、事業体の皆様の努力により、近中局の生産性は年々向上しております。

近年は国産材への期待が高まっていることから、林業の採算性を高めるためには、さらなる生産性の向上が必要であると考えます。

今後も、作業システムの改善に向けた分析を行い、その結果を事業体の皆様にフィードバックするとともに、皆様と連携した取組を進め、林業の採算性向上に努めてまいります。